

第49回日本臨床バイオメカニクス学会 ランチョンセミナー5

2022年11月5日(土) 11:30-12:30

会場： **第2会場**

ホテルニューキャッスル 3F 麗峰 (東)

座長：リハビリテーション・スポーツメディカルセンター 熊本回生会病院
副院長・診療部長

鬼木 泰成 先生

演者：神戸大学大学院医学研究科 外科系講座整形外科学 教授

黒田 良祐 先生

＋ 前十字靭帯再建術



黒田 良祐 先生

前十字靭帯 (ACL) 機能不全はスポーツ復帰の大きな妨げになることはもちろんであるが、長期的には膝関節の変性が進み変形性膝関節症に至る。ACL再建術は元の活動性を再獲得するために必須の治療法であるが、近年の術後長期経過観察研究からACL再建術後の約20%にpivot-shift test陽性症例があることや、ACL再建膝は対側 (健常側) に比較して依然として3-4 倍のOA発生リスクがあることなどが報告されている。これらのエビデンスは現在世界で行われているACL再建術では正常の膝キネマティクスを取り戻せていない可能性やACL損傷時に合併する他の軟部組織損傷が適切に治療できていない可能性が考えられる。にもかかわらず多くの良好な術後成績が報告されているのは、評価方法にも課題があると考えられる。過去30年にわたる膝関節における様々な病態解明、治療法開発のためのバイオメカニクス研究の成果から我々はACL再建前後の新たな動的3次元定量評価を提唱し、評価方法が改善・進歩したことで手術手技の改善点も明らかとなり、新たな手術手技を提案している。本ランチョンセミナーでは過去のバイオメカニクス研究を紹介するとともに、ACL損傷に対する最新治療戦略について考察する。

- 本セミナーは現地開催となります。
- 本セミナーは整理券制ではございません。コロナウィルス感染対策の為、会場の収容人数に制限が出る可能性がありますので余裕を持ってご来場ください。
- 本セミナーは、日本整形外科学会教育研修単位として下記の内1単位が取得できます。
 - ・ 認定単位 : 日整会専門単位 (N) または スポーツ単位 (S) 1単位
 - ・ 必須分野 : [2] 外傷性疾患 (スポーツ障害を含む)
[12] 膝・足関節・足疾患